

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もありえます。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

※字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

※ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

□ (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 4 点

口

問二 4 点

イ

問三 各 3 点

X 〓 八

Y 〓 二

問四 10 点

【模範解答例】自分が少年に好意を持たれていると

想像すると優越感を覚えて心地よいが、 (A 5 点)

少年の傲岸な眼の意味を十分に納得できないままである。

(60 字)

(B 5 点)

◎各加点要素の加点の条件

【A・B に関して部分採点を行う】

A 少年に好意をもたれていることから、優越感を覚える (自尊心を満たす)

B 少年の傲岸な眼の意味を納得できない (少年の心情をよく理解できない)

\* 「不安である」という要素があれば最低 2 点を加点する

問五 5 点

ホ

問六 16点

【模範解答例】気位の高い令嬢にとつて、

(A 2点)

自分をモデルにした画を情熱的に描いた少年に

恋心をくすぐられた経験は、

(B 5点)

現実以上に美しく崇高なものにしなければ、

(C 6点)

心が満たされなかったから。

(79字)

(D 3点)

◎各加点要素の加点の条件

【A～Dに関して部分採点を行う】

A 気位の高い(自尊心の強い・傲慢な)令嬢

B 画を描く少年に恋心をくすぐられた(少年との出会いがひと夏の思い出となった)

C 体験を現実以上に美しく崇高なものにする(少年を天才と呼び、思い出を美化する)

D 心を満たそうとした(感傷に浸ろうとした・昇華しようとした・自分を納得させようとした)から

問七 5点

二

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 各2点 (計8点)

- 1 機微      2 些細 (瑣細) 可  
3 十全      4 周縁

※解答通り

問二 各2点 (計4点)

- Ⅰ へ      Ⅱ 口

※解答通り

問三 6点

【模範解答例】ある事象を無時間的に、  
空間的な構造でとらえるという手法。

(28字) (B3点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・Bに関して部分採点

A 「ある事象を無時間的に」(3点)

※「時間軸」でとらえる西洋の歴史的思考に対する、「無時間的構造」(傍線部直後)の指摘。

\*「無時間的構造でとらえる手法」としてある場合、「構造」という表現を「空間の構造」が説明されているものとは考えない。

\*「柳田は時間と持続でとらえたのに対し」(第6段落)と、柳田との対比を指摘したものは、加点も減点もしない。

B 「空間的な構造でとらえるという手法」(3点)

※「空間的な構造」(第4・6段落)の指摘。

△「トートেমシムの構造でとらえるという手法」は、「空間的な構造でとらえ」を明確には説明していないので  
▲2点減点で△1点。

△単に「構造でとらえ」という手法」としたのも、「空間的な構造でとらえ」を明確には説明していないので  
2点減点で△1点。

△「対象が構造化されていて構造を通じて、構造としてとらえた手法」としたのも、「空間的な構造でとらえ」を明確には説明していないので  
▲2点減点で△1点。

\*「言語学と同じように」から始まり、「空間的にとらえた手法」と続く場合の、「言語学と同じように」は、加  
点も減点もしない。

\*「トートেমシムの構造」から始まり、「空間的にとらえた手法」と続く場合の、「トートেমシムの構造」は、加  
点も減点もしない。

×「言語学と同じようにとらえた手法」は、「空間的な構造」にも「トートেমシムの構造」にも触れていないの  
で×で0点。

## 中国から日本にいたる古典的史書

※解答通り

問五 14点

【模範解答例】

近代的な歴史とは、過去の重大な事象を (A 3点)  
時系列に並べたものであるが、 (B 3点)  
柳田のとらえ方も、歴史の外にある人々の生活を、 (C 4点)  
人々の記憶の中に連綿と続き、複雑に絡み合う線上にあるものとして、  
時間的にとらえたから。 (98字) (D 4点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・C・Dに関して部分採点。ただし、「近代的な歴史とは」で解答を始めるよう設問で指示しているので、これが守られていない場合、全体×0点。

A 「近代的な歴史とは、過去の重大な事象を」(3点)

※近代の歴史が扱う対象は「重大なもの」であることの説明。

△「強い王者の歴史」は、本文中の具体例をそのまま用いているので▲2点減で△1点。

\*「時系列」であることが軸であり、「重大な事象」が軸ではないが、ここでは「重大な事象」が指摘できればよい。

B 「時系列に並べたものであるが」(3点)

※近代の歴史が「時系列」で並べられていることの説明。

○「時間の推移で追っている」も可。

C 「柳田のとらえ方も、歴史の外にある人々の生活を」(4点)

※柳田のとらえが、西洋の「歴史の外にある」ものを対象にすることの説明。

○「口承や口承の記録など不安定で、無秩序で、組織されていない言葉に残されたものを」も可。

△「柳田は、文字化されない事実を」としている場合は、文字化されていないものと限定しているので▲2点減で△2点。

\*「時間軸」でとらえたことがまさに「軸」であるが、ここも「弱いもの」を対象にしたことが指摘できればよい。

D 「人々の記憶の中に連綿と続き、複雑に絡み合う線上にあるものとして、時間的にとらえた」(4点)

※柳田が「連綿と続き、線上にあるもの」として、時間的「にとらえた」ことの説明。

△単に「時間軸でとらえた」は、ニュアンスが出し切れていないので▲2点減で△2点。

## 【模範解答例】

どちらも反歴史の立場によっているが、 (A 2点)

西欧の民族学は、自国とは異なる習俗や言語などを調査・分析をして、 (B 3点)

無時間的に構造化する学問であり、 (C 3点)

日本の民俗学は、自国の庶民の生活を伝承や膨大な文献をもとにして、 (D 3点)

時間的に結びつけていく学問である。 (115字) (E 3点)

◎各加点要素の加点の条件

※A・B・C・D・Eに関して部分採点。文末が「…と、(筆者は)とらえている。」のようになっていないかどうかは問わない。

## A 「どちらも反歴史の立場によっているが」(2点)

※違いを説明する問いだが、違いの前提として、共通する部分がある点を指摘。

○「非歴史」も可。どちらも「確固たるものとされている歴史を批判的にとらえている」ということが示されていることがポイント。

\*この抜けが圧倒的に多いと思われる。

## B 「西欧の民族学は、自国とは異なる習俗や言語などを調査・分析をして」(3点)

※違いの1点目、西欧の民族学が「自国とは異なる民族」を対象とし、その「習俗や言語などを分析することの説明。

△「西欧の民族学は、習俗や言を調査・分析をして」は、「自国とは異なる」ことが説明されていないので、▲1点減で△2点。

△「西欧の民族学は、自国とは異なる対象を調査・分析をして」は、「習俗や言語」を扱う学問であることが十分に説明できていないので、▲2点減で△1点。

## C 「無時間的に構造化する学問であり」(3点)

※違いの2点目、「無時間的」にとらえ、「構造化」してとらえることの説明。

△「無時間的にとらえる学問であり」とし、「構造化することの説明のないものは▲1点減で△2点。

△「構造化してとらえる学問であり」とし、「無時間的に」をとらえることの説明のないものは▲2点減で△1点。

## D 「日本の民俗学は、自国の庶民の生活を伝承や膨大な文献をもとにして」(3点)

※Bに対応する違いで「自国」を対象とし、その「庶民の生活や伝承」に注目することの説明。

△「日本の民俗学は、庶民の生活を伝承や膨大な文献をもとにして」は、「自国」であることが説明されていないので、▲1点減で△2点。

△「日本の民俗学は、自国の庶民を対象にして」は、その「伝承や膨大な文献をもとにする」ことが説明されていないので、▲2点減で△1点。

△「日本の(強い歴史の)流れに流されたことを対象にして」は、「流されたこと」という比喻表現をそのまま用いているので、▲2点減で△1点。

## E 「時間的に結びつけていく学問である」(3点)

※Cに対応する違いで、「時間軸」でとらえることの説明。

△「歴史の流れ」は、比喻表現をそのまま用いているので、▲2点減で△1点。

\*本文の最後に示された「連続」「不連続」を指摘しているものは、加点も減点もしない。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 4点×3

問一・A

【模範解答例】お顔立ちが (A 2点)

たいそう美しく (B 1点)

ていらっしやり、 (C 1点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント3箇所。

A 「お顔立ちが」：2点。尊敬の接頭語「御」＋「容貌・容姿・顔立ち・見た目」の二箇所。「顔立ち」だけでは1点。

B 「たいそう美しく」：1点。「とてもすばらしい」「たいそう美しい」「とても立派」の解釈。

C 「ていらっしやり」：1点。尊敬の補助動詞。「くなさる・くていらっしやる」。

問一・B

【模範解答例】生き永らえることができそうにも (A 2点)

思われなさらなかったので、 (B 2点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。

A 「生き永らえることができそうにも」：2点。「生きる」＋「べし」の可能の意。完答。

B 「思われなさらなかったので、」：2点。尊敬＋過去＋打消＋「已然形＋ば」の原因理由。4つの条件がそろって2点。完答。

問一・E

【模範解答例】たいそう物思いに沈んでいる (A 3点)

様子であって、 (B 1点)

【各部の採点】 4点満点。加ポイント2箇所。

A 「たいそう物思いに沈んでいる」：3点。「たいそう・ひどく・とても」1点＋「物思いに沈んでいる・がっかりしている」2点。存続の助動詞「る」の解釈は「沈んだ」のような解答でも正解とする。

B 「様子であって、」：1点。「様子・姿」＋断点の助動詞「なり」の連用形「くであって・くで・であり」。完答。

問二 各1点×4

1 ㉡ホ

2 ㉡ロ

3 ㉡イ

4 ㉡へ

問三 各2点×4

① ㉡イ

② ㉡ハ

③ ㉡ハ

④ ㉡ホ

問四 7点

- 【模範解答例】経を読みに戻ってくるので、  
葬儀をしないでほしい (A 3点)  
ということ。 (B 3点)  
(二十九字) (C 1点)

【各部の採点】7点満点。加ポイント3箇所。

- A 「経を読みに戻ってくるので」…3点。「残りのお経を読むために蘇生する」という内容。3点。  
B 「葬儀をしないでほしい」…3点。「葬儀を行わないようにしてほしい」という内容。3点。  
C 「ということ」…1点。文末処理。ここだけの正解は点数に入れない。

問五 4点

二

問六 7点

- 【模範解答例】母上の、 (A 3点)  
後少将の死を悲しみ (B 2点)  
涙を流す (C 1点)  
様子。 (二〇字) (1点)

【各部の採点】7点満点。加ポイント4箇所。

- A 「母上の、」…3点。「北の方の、」でも可。  
B 「後少将の死を悲しみ」…2点。泣き濡れている原因を示すこと。「息子が亡くなり」は1点。  
C 「涙を流す」…1点。「袖濡らす」という慣用句の解釈。  
D 「様子」…1点。文末処理。ここだけ正解のものは点に入れない。

問七 6点

年頃きはめたる道心者にぞおはしける。 (十八字)

※解答通り

問八 2点

今鏡↓水鏡↓増鏡

※完答

四 (漢文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2 点 × 4 = 8 点

a 〓ひととなり      b 〓あやまちを

c 〓ざらんと      d 〓こたえて

◎採点基準

- ・ 歴史的仮名遣いは 1 点。 例 d 〓こたへて
- ・ 送り仮名不足 0 点。 例 b 〓あやまち      c 〓ざらん
- ・ d 〓ざらむと…「む」を「ん」に直して 1 点。

問二 6 点

【模範解答例】私は (A 2 点)

だれに (B 1 点)

国事を任せたら (C 1 点)

よいのだろうか。 (D 2 点)

◎採点基準

- ・ A 「国を任せる」「政治を任せる」「政治をやらせる」等も可とする。
- ・ C と D を一緒にして「任せるべきだろうか」とするもの…減点 1。

問三 10 点

【模範解答例】清廉潔白で立派な人物ではあるが、 (A 3 点)

自分より劣る人を認めず、 (B 2 点)

他人の過失を見逃せない (C 2 点)

融通の利かない人物なので (D 1 点)

政治には向かない。 (E 2 点)

◎採点基準

- ・ A 〓「清廉潔白で」…2 点。「立派な」…1 点。

問四 6点

【模範解答例】其の (A 1点)

黄帝に (B 1点)

若かざるを (C 2点)

愧ぢて、 (D 2点)

◎採点基準

\*漢字をひらがなにしたもの：各1点減点。

\*文が完成していないものは不可。

C 「若かざる」は1点。

D 「愧ぢて」は「愧じて」も可。

「愧ず」は1点。

問五 5点

ハ

問六 5点

ロ

問七 10点

【模範解答例】 国家の運営には (A 2点)

謙虚で細かい事にとらわれ過ぎない隰朋の方がよく、 (B 3点)

人事は (C 2点)

友情よりも (D 1点)

国家の大事を優先するべきと考えたから。 (E 2点)

◎採点基準

B 「謙虚で」：不足で減点1点、

「細かい事にとらわれ過ぎない」：不足で減点1点。

「寛容」など一つにまとめてある場合：2点

\*鮑叔牙との対比で解答している箇所は不問。

内容に誤りがある場合は、減点1点。